

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	砺波市立出町小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16	22
児童数	77	62	57	55	67	57	7	382	

II 研究の概要

1. 研究主題

生きてはたらく力の向上を目ざして 教科・領域・総合の関連の中で「確かな学力」を育てる -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3～6年・算数(学年が上がるにつれて学習内容の理解に個人差が見られるようになり、個に応じた少人数指導を行う必要性があるため。1・2年生については、担任による指導を充実させる。)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

- テーマ 生きてはたらく力をもとめて
- 研究の見通し(仮説) 少人数指導を取り入れた単元構成を工夫することにより、一人一人の子どもは自分のよさを発揮しながら自信をもって取り組むことができる。
- 研究の内容・方法
 - ・教科・領域・総合と「生きてはたらく力」の関連のさせ方
 - ・個に応じた指導法の工夫及び教材開発
 - ・学習形態の工夫、見直し ・一部教科担任制の導入 ・家庭・地域との連携
 <授業研究、学力調査、先進校視察、児童・保護者の意識調査等>

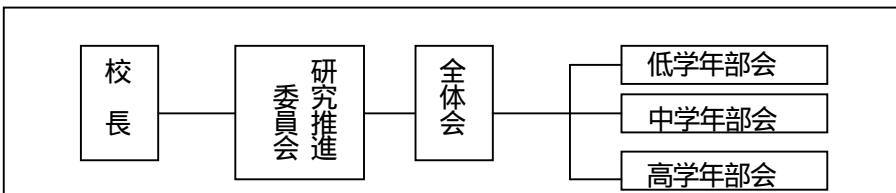
平成15年度

- テーマ 生きてはたらく力の向上を目ざして 教科・領域・総合の関連の中で「確かな学力」を育てる -
- 研究の見通し 15の「生きてはたらく力」(自ら学び自ら考える力の中核)を設定し、一人一人の考えのよさを認める支援や評価の工夫をすることで、子どもは自分のよさを実感し、意欲的に学んでいくことができる。
- 研究の内容・方法
 - ・個に応じた指導法の工夫及び教材開発
 - ・教科・領域・総合の関連の中で育てる「生きてはたらく力」の評価と支援の工夫
 - ・学習形態の工夫、見直し ・家庭・地域との連携
 教師それぞれが指導を得意とする教科を可能な範囲で受け持ち、一部教科担任制については取りやめとした。
 <授業研究、学力調査、先進校視察、児童・保護者の意識調査等>

平成16年度

- テーマ 生きてはたらく力の向上を目ざして -考える子どもを育てる-
- 研究の見通し 「自ら課題を見つけ自ら学ぶ力」の育成を図るには、「考える力」の向上が大切となる。一人一人の考えのよさを認める支援や評価の工夫をすることで、それぞれが自分の考え方や取り組み方のよさを実感し、意欲的に学んでいくことができる。
- 研究の内容・方法
 - ・教科・領域・総合の授業において「考える力」を育てる学習活動や指導過程の工夫
 - ・個に応じた指導法の工夫及び補足的・発展的な学習の教材開発

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<実践例1; 個に応じた指導法の工夫及び指導のための教材開発>

第5学年算数科:「ようこそ!面積ワールドへ! いろいろな図形の面積を求めよう - 平行四辺形と三角形の面積 - 」



(1) 実践の概要

5学年では、4月実施の学力調査結果で、落ち込みが見られた図形領域を年間を通じた指導の重点として研究を進めた。平面図形の面積を求める学習が5学年で終了することから、図形を世界地図に5つの“ワールド”として分け、子どもたちの「ワールドにある図形の面積を正しく求めてみたい。」という意欲を高めながら、自力で平行四辺形や三角形の面積を求めていく学習を展開した。

- ・ 学習意欲を喚起する教材開発と指導過程の工夫

子どもが自分の進度や理解度に合わせて学習できる「できたよコーナー（小グループによる発表コーナー）」や「ヒントコーナー（補足的な内容を加味した支援コーナー）」の場を設定した。また、必要に応じてティームティーチングによる全体学習も行い、コース別に学んできた学びの交流や共有化を図るようにした。

後半のチャレンジワールドでは、自己診断テスト結果をもとに、補足的な学習コースと発展的な学習コースに分けた。

- ・ 図形の見方や感覚、量感を豊かにする算数的活動の工夫

平行四辺形や三角形の求積方法を考える際に、実物を切る、折る、動かす算数的活動を十分行ったり、「パズルコーナー」を設置し、課外でタングラムなどの等積変形を体験したりできるようにした。



(2) 実践の成果

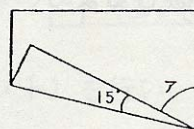
- ・ 子どもたちは様々な算数的活動に取り組む中で、既習の図形を基にして平行四辺形や三角形の等積変形や倍積変形などを行い、その面積を求めることができようになっていった。
- ・ 少人数指導によって子どもたちは、「自分の考えを友達に分かりやすく伝える」などの目当てをもち、分かりやすいノートの書き方、筋道が通った話し方を意識して学習に取り組むことができた。
- ・ 本単元終了後、4月実施の学力調査結果で、最も落ち込みが見られた図形の見方・考え方の問題を使って評価したところ、以下のように正答率が上昇した。

5年学力調査結果の正答率

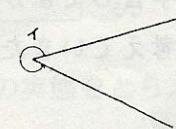
	[3]-(1)	[3]-(2)
県平均	15.5%	63.2%
4月実施	13.5%	56.5%
7月実施	16.6%	61.4%
12月実施	22.2%	80.9%

(3) 次の問いに答えましょう。

(1) 長方形の紙を下図のように折りました。アの角度は何度ですか。



(2) 下の図のイの角度を分度器を使ってはかりましょう。



< 教科・領域・総合の関連の中で育てる「生きてはたらく力」の評価と支援を工夫した事例 >

第4学年算数科：「かわり方を見やすく表そう - グラフで節水を呼びかけよう - 」

(1) 実践の概要

算数と総合的な学習の時間との学習内容を関連させ、子どもたちに問題意識が生まれる単元を構想した（次ページ参照）。

- ・ かかわりを通して学ぶ指導過程の工夫

子ども同士がかかわりながら学ぶことができる情報交換の場「聞いてコーナー」や教え合う「ヒントコーナー」でのかかわらせ方を工夫した。

- ・ 個に応じた指導過程や評価の工夫

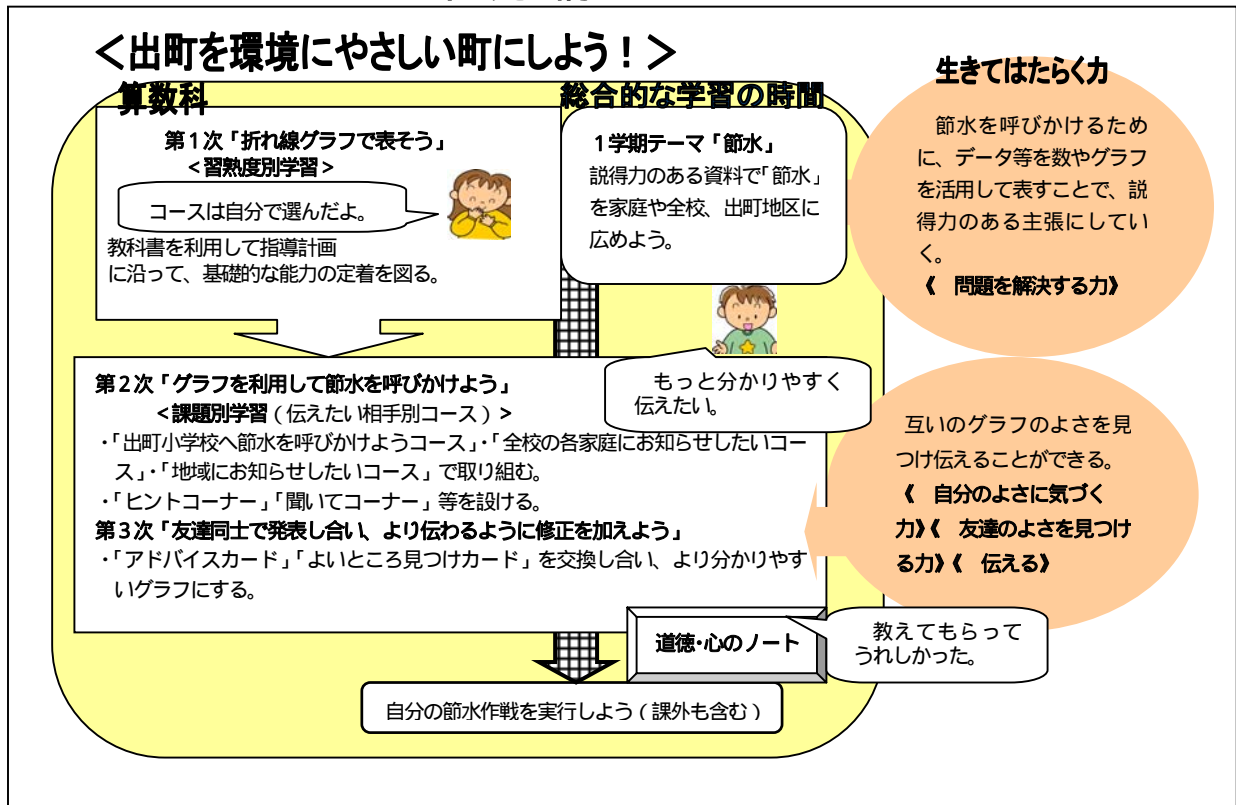
評価では、子どもの自己評価や相互評価、教師評価について工夫した。自己評価では、「生きてはたらく力」の観点「自分のよさに気づく・友達のよさを見つける」から、自他のよさを見つけることができるように配慮した。また、相互評価では、互いの考えや取り組みのよさを伝え合う「よいところ見つけカード」や改善点を助言し合う「アドバイスカード」を交換し合った。教師評価では、毎時間の評価規準を基にして、子どもたちの様子を補助簿に記録していった。

(2) 実践の成果

- ・ 算数と総合的な学習の時間を関連させたことは、子どもたちに表やグラフを学ぶ必要感を高め、学習意欲の継続につながった。
- ・ 2クラスを3人の教師による習熟度別と課題別の、2通りの少人数指導の形態にした。このことによって、教師は一人一人のつまずきを的確にとらえ、そのつまずきに応じた指導を行うことができた。そのため、4月に実施した学力調査を本単元終了後に再度実施したところ、棒グラフに関する内容理解の正答率が48%から78%と、30%も上昇した。

- ・ 指導過程や評価の工夫によって、互いに認め合いながらよりよい自分に成長しようと、自信をもち、意欲的に取り組む子ども姿が見られた。

<単元構想>



2. 今後の課題

- ・ 「生きてはたらく力」を本校の子どもの実態に即して重点化し、実践に取り組む必要がある。
- ・ 子どもに学ぶ習慣を身につけさせる指導の工夫や学力向上のシステムづくりを図る。
- ・ 評価にあたっては、子どもをとらえる観点を教師間で十分に共通理解しておくことが必要である。
- ・ 問題意識を生み出したり、筋道を立てて考えたことを表したりする算数的活動を十分にを行い、一人一人に考える体験を増やしたり、その楽しさに気づかせたりすることが大切である。

IV 学力等把握のための学校としての取り組み

- ・ 県小学校教育研究会学力調査（4月...学力の実態把握） ・ 標準学力検査（2月...学力の実態把握）
- ・ 単元ごとの到達度テスト（到達度の把握） ・ 県教育委員会チャレンジテスト（10・2月...漢字の読み書き、計算能力の向上） ・ 36マス計算（計算能力の向上） ・ 漢字・計算大会（学期末...漢字の読み書き、計算能力の向上）
- ・ 少人数指導についての児童・保護者アンケート（年2回程度...意見把握）

V フロントアスクールとしての研究成果の普及

	名 称	日 時	場 所	テ ー マ	対 象
実績	教育実践研究発表会	平成14年11月21日(木)	本校	生きてはたらく力をもとめて	教員・保護者
実績	教育実践研究発表会	平成15年6月19日(木)	本校	生きてはたらく力の向上を目ざして	教員・保護者
予定	教育実践研究発表会	平成16年11月18日(木)	本校	生きてはたらく力の向上を目ざして	教員・保護者

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下

7～12学級

13～18学級

19～24学級

25学級以上

【指導体制】

少人数指導

TTによる指導

一部教科担任制

その他

【研究教科】

国語 社会 生活

算数 理科

音楽 体育 その他

図画工作 家庭

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有 無